

薬剤疫学研究における自己対照研究手法の有用性

【背景】

医療情報データを利用した薬剤疫学研究で薬剤の効果あるいはリスクを評価するとき、医療情報データの多くが研究を目的として収集されたものでないため、重要な交絡因子に関する情報が不足している場合がある。そのため、興味のある薬剤と適応の重なる薬剤を Active comparator とした研究を行うことが多い。

しかし、Active comparator を用いた研究手法では非曝露を対照とした薬剤の効果直接推定できないという課題がある一方、イベントを発症したケースのみを解析対象とする自己対象研究手法は、非曝露を対象とした比較が可能であるため、非曝露を対象としたイリサーチクエスチョンにおいて有用である可能性がある。

【内容】

本発表では、Active comparator を用いた研究デザインの概要や意義、限界について述べるとともに、代表的な自己対象研究手法の概要や性質について述べる。さらに、卒業論文に向けた研究計画案を示す。

参考文献

- ・ Hallas J , Pottegard A. Use of self-controlled designs in pharmacoepidemiology. J Intern Med2014;275:581-89.
- ・ Gault N, Castaneda-Sanabria J, De Rycke Y, Guillo S, Foulon S, Tubach F. Self-controlled designs in pharmacoepidemiology involving electronic healthcare databases: a systematic review. BMC Med Res Methodol. 2017;17(1):25.
- ・ Yoshida K, Solomon DH, Kim SC. Active-comparator design and new-user design in observational studies. Nat Rev Rheumatol. 2015;11(7):437 - 441.
- ・ Lund JL, Richardson DB, Stürmer T. The active comparator, new user study design in pharmacoepidemiology: historical foundations and contemporary application. Curr Epidemiol Rep. 2015;2(4):221 - 228. doi:10.1007/s40471-015-0053-5
- ・ Heather J. Whitaker and Yonas Ghebremichael-Weldeselassie Self-Controlled Case Series Methodology Annual Review of Statistics and Its Application 2019 6:1, 241-261